

会議・視察報告

第8回羅先国際商品展示会

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

2018年8月20～23日に、北朝鮮の羅先市羅津地区にある羅先国際商品展示場で、第8回羅先国際商品展示会が開催された。昨年までは先鋒地区にある先鋒展示館での開催であったが、今年は新築の建物の3階での開催となった。

開幕式は20日午前10時から行われ、羅先市人民委員会委員長や外国投資企業の代表、中国とロシアの駐清津総領事館の総領事などが参席した。

今回の商品展示会には、北朝鮮から50社、中国から49社と朝中共同開発共同管理委員会、日本からERINAを含む2社、ドイツ、カナダ、米国から各1社の参加となった。中国企業は非核化後の展開を考えてか、東北三省以外の省からも多く来ており、家電製品や調理器具といった消費財だけでなく、部品や工場設備、畜産設備な

どの中間財や生産財を販売する会社が増えていた。国連安保理決議による国際的制裁が強化されているため、サンプルを持っていくことができず、カタログや説明資料だけで商談を待っている企業が多いのが印象的であった。

翌21日には、朝中共同開発共同管理委員会の新庁舎で投資説明会が行われ、羅先経済貿易地帯や朝中共同開発の構想が説明された。今年は、外国投資企業代表の事業紹介はなかった。

投資説明会では、羅津港を通じた物流ルートの優位性が説明されており、新潟港が日本海側の代表的な港湾として説明の対象となっていた。投資説明会には、主に外国からの出展企業関係者が多く参加していた。

滞在期間中、羅津港を参観する機会が

あった。今回は、第3埠頭への訪問がかなわず、第1埠頭は工事中とのことで、第2埠頭のみ訪問となった。第2埠頭から見た第3埠頭には石炭の山も人影もなく、閑散としていた。

第2埠頭の一部には石炭が山積みになっていたが、荷役は行われておらず、こちらも閑散としていた。

滞在期間中、羅津市場を参観する機会があった。羅津市場は現在の位置に移転してから、食品や雑貨の売場だけでなく、羅先市を中心とした地方の国営企業の直売店が多く入居するようになり、写真7のように、個別の店を構えるようになってきている。

食品売場も構内は清潔に保たれており、北朝鮮の市場の中では現状で最も「豪華」な設備を誇ると言われている。

写真1 羅先国際商品展示会で行われた開幕式



(出所) 筆者撮影

写真2 電気あんま機の展示即売



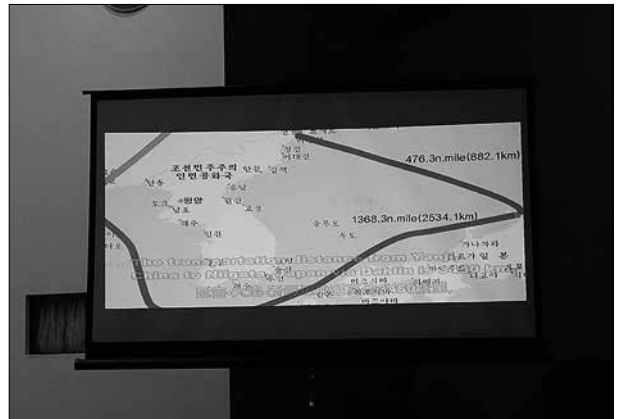
(出所) 筆者撮影

写真3 バイオ関連企業の展示



(出所) 筆者撮影

写真4 投資説明会の一場面



(出所) 筆者撮影

写真5 投資説明会の参加者



(出所) 筆者撮影

写真6 羅津港第2埠頭から見た第3埠頭



(出所) 筆者撮影

写真7 羅津市場の構内の様子 (奥が食品売場の建物)



(出所) 筆者撮影